

第5期第2回 札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会

概 要

日時：平成23年1月28日（金）

19：00 ～ 21：00

場所：札幌エルプラザ2階 会議室1・2

1. 開 会

事務局より、10月1日で職員の人事異動があり紹介を行い、議事に入る。

2. 議 事

(1) 平成22年度事業実施報告および平成23年度事業計画に向けて

事務局より、指定管理者として、平成22年度に実施した業務の報告と、「平成23年度の方向性」について説明し、各委員から、質問やご意見をいただいた。

<意見等の要旨>

1. 情報収集提供・相談に関する業務について

●サテライト事業について

Q. 「サテライト事業」は、まちづくりセンターや地区センターを訪問したとあるが、具体的な聞き取りの成果は？

A. 市民活動サポートセンターを知ってもらえているかについては、まちづくりセンターは知っているが、地区センターは認知度が低かった。
しかし、事業連携の情報交換は、まちづくりセンターより地区センターのほうが講座事業での連携について興味をもっていた。

●情報誌「みんなのしみサポ」について

Q. 情報誌「みんなのしみサポ」の配布場所はどこか？

A. 市内公共施設、関連施設、協力店舗などに5000部配布しています。
(別紙資料)

- ・手に取って見る機会が少ない。
- ・実際にNPO活動を行っている人にとって有益な情報がない。
- ・広く市民に向けての情報誌として発行していると思う。
- ・活動団体の情報が少ない。魅力的な人や活動が紹介されていると、市民活動を知らない人でも興味を持つのでは。
- ・普段働いている人が目に留まる場所に置いてあるとよい。
- ・市民活動を推進できるような場所に設置するなど、情報誌を広報することが必要だと思う。
- ・悩みや、タイムリーな情報を出すようにしてはどうか。

- ・テーマがあると新しい号が出たあとも相談や問い合わせのときに使える資料になると思う。
- ・情報誌の方向性（ターゲット）をもっと明確にし、伝えて行ってはどうか。
- ・字が小さい。

●ビデオ放映・パネル展について

Q. 「この事業とパンフレット、チラシ等の配架を併せることで増大した」とあるが、何が増大したのか。

A. 情報発信の効果が増大し、団体についてよく知ってもらうことができた。

Q. 次年度の情報発信について「より効果的な方法を検討」とあるが具体的な内容は？

A. 団体紹介ビデオは10団体放映した。それ以外は市民活動に関するDVDを流している。

年2回のパネル設置の回数は増やしていきたい。

- ・パネル展は活動団体自身が作り特徴を出したものを行ってはどうか。
- ・ビデオ放映は団体の紹介になり情報発信として良いツールだと思う。
- ・紹介団体のダイジェスト版を作成・放映してはどうか。
- ・テーマ設定や、場所・回数を増加してはどうか。
- ・紹介ビデオを製作する団体があるので、情報提供をしてはどうか。
- ・団体紹介DVDを情報センターに置き、貸し出しをしてはどうか。

●アンケート調査について

- ・多くの方が新聞で情報を得ている。団塊の世代が退職後、NPO活動、ボランティア活動に参加することを考え、「広報さっぽろ」やマスコミを通して支援することが必要ではないか。
- ・インターネットの活用だけに頼らず、既存の媒体も活用してはどうか。
- ・地域活動を通じての社会貢献が必要だと思う。起業者向けの参加の仕方、情報提供があっても良いのでは。
- ・健康生きがいがづくりアドバイザーでは男性のほとんどが「まちづくり」に参加している。企業を媒体として社会貢献活動もできるので、サテライト事業でタイアップしてもよいのでは。

2. 研修・学習に関する業務

●ポイント支援講座プログラムについて

Q. ポイント支援講座プログラムのⅠとⅡの違いは何か

A. Ⅰは、ニーズの高いテーマを研修機会として提供し支援している。今年度は「広報」をテーマにして、全5回実施した。

Ⅱは、事業実施スキルを持っている団体と協力し、対等な立場で料金や広報について打ち合わせをしながら、企画事業を行った。また、会場提供や広報をサポートセンターで行った。

Q. 「協働企画コース」の選考基準、参加資格はあるのか。

A. あります。参加資格も活動実績を必要とするなど設定しました。

(別紙「事業一覧」を参照)

応募対象として、

①過去市民活動サポートセンターで実施した「市民企画講座」に参加していない団体

②事業実績があり、応募事業に関して市民活動サポートセンターと協働関係を築き実施することができる団体

③事業実施にあたり、事前に行われる説明・交流会および研修会に、スタッフ2名以上参加できる団体

としており、結果、5団体の申し込みがあり、4団体が選考された。

・例えば、男性ばかりの団体が参加できるなど、ピンポイントの事業を実施してもよいのでは。

3. 交流活動に関する業務

●サロン事業について

Q. 「パワーサロン」と「しみさぼサロン」の違いは？

A. 同じ「サロン」とはついているが、「パワーサロン」は研修・学習に関する業務にあたり、学習をメインとし、「しみさぼサロンは」団体同士の交流に重点をおいて実施した。

・「しみさぼサロン」と言っても、何の集まりかイメージがつかない。

「子育てサロン」のように、「サロン」の前につく言葉は、わかりやすいほうがよい。

・「学び」と「交流」を一緒に行うという発想は良いと思う。活動発表などいろいろな話を聞くこともよいのではないか。

・交流の中から生まれたニーズが形になるなど、やっていく中でニーズが生まれてくるものもある。

そういう意味で、交流しながら学習するスタイルもあるのではないか。

・「しみさぼサロン」に参加したが、話しきれないので時間や回数など増やしてみてもどうか。

●情報センターとの連携について

Q. 紹介する本の選定は誰が行い、どのように情報を提供しているか？

A. 講座の際、テーマなどに沿って関連図書を職員が選定しています。

・講師のお薦めする本などを紹介してはどうか。

Q. NPOが発行する本の代行販売は行わないのか。

A. 販売は行っていない。しかし、事務ブース使用団体については(許可をとって)行っている。

●しみさぼカフェについて

- ・チラシなどまじめな印象がある。
- ・公共施設の観点から、どの団体も公平に取りあげているが、時に話題性のあるものを取りあげてみてはどうか。

4. 団体活動支援に関する業務

●事務ブースについて

Q. 事務ブース使用した団体で退去したあとの動向は把握しているのか。

A. (別段調査はしていないが)把握はおこなっている。事務所を持つ団体もいれば、団体メンバーの自宅に事務所を構えるところもある。

- ・事務所の確保に悩む団体が多いのが実情である。
- ・公共施設以外でも企業がビル一室を提供し、複数団体がシェアする例もある。
- ・(団体が事務所として使用できる場所など)情報が集まり、活用できたらよいのではないか。

(2) 平成23年4月分事務ブース使用団体選考委員の推薦について

座長より、事務局から推薦をお願いしたいとの意見があり、他の委員からも賛同いただいたため、事務局案を提示し、各委員からの同意を得られた。

(事務局案)

- ・岡田 朋子委員
- ・坂本 純科委員

3. 閉会

第3回は平成23年6月頃を予定していることを説明し、第5期第2回事業運営協議会を終了した。

第5期第2回事業運営協議会出席者

○事業運営協議会委員 (五十音順)

石村 実、遠藤 麻紀、岡田 朋子、河野 和枝、坂本 純科、東田 秀美、
萩原 麻代、槇 文彦、村松 弘規、森田 久芳

○札幌エルプラザ公共4施設

館長：岩寄 義純 市民参画課長：岡本 峰子
市民活動主幹：大築 覚 市民活動主査：野坂 真英
市民活動係：森口 雅和、田中 和美、東 晋次、柴田 正吾